

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は高値圏で荒れた動きか

[6月13日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月6日～6月10日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	130.83	134.56(9)	130.43(6)	133.91	+3.03
ユーロ・ドル	1.0729	1.0774(9)	1.0611(9)	1.0623	-0.0096

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,824.29	+62.72	日本10年債利回り	0.252	+0.018
ダウ平均株価	32,272.79	-626.91	米10年債利回り	3.042	+0.109

=====

<来週の主要経済統計等>

- 13日 英4月鉱工業生産指数、英4月製造業生産指数、英4月貿易収支
- 14日 日本4月鉱工業生産指数確報値
 - 英5月雇用統計
 - 独5月消費者物価指数確報値、独6月ZEW景況感指数
 - ユーロ圏4月鉱工業生産指数
 - 米5月生産者物価指数
 - カナダ4月製造業出荷
- 15日 NZ第1四半期経常収支
 - 日本4月機械受注高
 - 中国5月鉱工業生産指数、中国5月小売売上高
 - ユーロ圏4月貿易収支
 - 米5月小売売上高、米6月NY連銀製造業景気指数、米5月輸入価格指数
 - 米連邦公開市場委員会 (FOMC、14～15日) 政策金利
 - パウエルFRB議長記者会見
 - 米4月対米証券投資
- 16日 NZ第1四半期国内総生産 (GDP)
 - 日本5月貿易収支
 - 豪5月雇用統計
 - スイス銀行 (SNB) 政策金利
 - 英中銀 (BOE) 政策金利
 - 米5月住宅着工・許可件数
 - 米6月フィラデルフィア連銀景況指数
 - 米新規失業保険申請件数
 - カナダ4月卸売上高
- 17日 日銀金融政策決定会合 (16～17日) 金融政策発表
 - 黒田日銀総裁記者会見
 - 英5月小売売上高
 - ユーロ圏5月消費者物価指数
 - カナダ5月鉱工業製品価格
 - 米5月鉱工業生産・設備稼働率、米5月景気先行指数

【前回のレビュー】ウオラー理事の発言以降は、FRBによる積極的な金融引き締めへの警戒感が再び広がっている。金融引き締めを警戒した米国株の下落でリスク回避の円買いの可能性もあるが、米長期金利は高止まりして、ドル円も大きな崩れは想定しにくく、高値圏でのみ合いが続くとした。

【米国での金融引き締めへの警戒感は根強い】

米連邦準備制度理事会（F R B）のウォラー理事が5月30日の講演で、インフレ率がインフレ目標の2%に接近するまで0.50%の利上げを行うことに前向きな見解を示した。6月2日にブレイナード副議長は、6月と7月の0.5%の利上げは「妥当な道筋」との判断を示す一方で、9月の利上げ停止の可能性に関しては非常に低いとの考えを示した。市場では、F R Bによる積極的な金融引き締めが意識されている。

経済指標では、1日に発表された5月の米I S M製造業景況指数は56.1となり、事前予想の54.6、前回の55.4を上回った。事前予想に反して上昇したことで、積極的な金融引き締めが意識された。3日に発表された5月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比39.0万人増となり、事前予想の32.6万人増を上回った。好調な雇用情勢が示されたことで、ドル買い円売りの動きが広がった。

米連邦準備制度理事会（F R B）をはじめとして、各国中銀は金融引き締め姿勢を強めているのに対して、日銀は金融緩和姿勢の継続を示していることで、日本と各国のスタンスの違いから、対主要通貨で円売りの動きが進んでいる。

ドル円は9日の東京市場で134.56前後までドル高円安が進行した。2002年4月以来、およそ20年2か月ぶりの円安水準となる。ユーロ円は144円台前半まで上昇して2015年1月以来7年5か月ぶりのユーロ高円安水準まで上昇した。対ポンド、対豪ドル円などでも軒並み大きく円安が進行している。

こうした中、14～15日の米連邦公開市場委員会（F O M C）が注目される。6月と7月の0.50%の利上げはほぼ織り込まれている。声明やパウエルF R B議長記者会見で今後のインフレ率の動向や9月以降の金融引き締めのスタンスにヒントがあるかが注目される。

F O M Cでの当面の金融引き締めスタンスには変化はないとみられ、ドル買いの地合いは継続しそうだ。また16～17日の日銀金融政策決定会合でも緩和姿勢にも変化はないとみられ、ドル円は底堅い流れが続くこととなりそうだ。ただ、大きく上昇が続いてきたことで、テクニカル的な過熱感も警戒される。こうした中、ドル円は高値圏で荒れた動きが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、132.00～137.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、14日に日本4月鉱工業生産指数確報値、米5月生産者物価指数、15日に日本4月機械受注高、米5月小売売上高、米6月N Y連銀製造業景気指数、米5月輸入価格指数、米連邦公開市場委員会（F O M C、14～15日）政策金利、パウエルF R B議長記者会見、米4月対米証券投資、16日に日本5月貿易収支、米5月住宅着工・許可件数、米6月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、17日に日銀金融政策決定会合（16～17日）金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米5月鉱工業生産・設備稼働率、米5月景気先行指数などがある。

【E C Bは7月に利上げ開始】

9日の欧州中央銀行（E C B）理事会では政策金利は据え置きとなった。資産購入プログラム（A P P）については7月1日で終了することを決定した。また、7月の理事会で0.25%利上げする意向を示した。さらにラガルド総裁は、中期的なインフレ見通しが低下しないようなら、9月にはより大きな利上げ幅が適切と発言し、9月に0.50%の利上げに動く可能性を示唆した。

E C Bスタッフ予測では、2022年のインフレ見通しを3月予想の5.1%から6.8%に上方修正、2023年は3月予想の2.1%から3.5%に上方修正した。2022年の経済成長見通しを3月予想の3.7%から2.8%に下方修正、2023年は3月予想の2.8%から2.1%に下方修正している。

E C Bによる量的緩和の終了や利上げなどの金融正常化の流れはユーロドルの支援材料となる。E C B理事会を受けてユーロ買いの動きとなり、ユーロドルは1.0774近辺まで上昇した。ただ、買い一巡後は利上げによるユーロ圏の経済への悪影響が警戒

されて、一転してユーロ売りに振れて、1.06台前半まで下落した。「ECBによる利上げ＝ユーロ買い」という単純な図式とはなりにくいようだ。

こうした中、ECBの利上げによるユーロ圏の金利上昇に伴うユーロ買いと、ユーロ圏の景気減速懸念によるユーロ売りの動きが交錯して、ユーロドルはもみ合いで推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0500～1.0800ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、13日に英4月鉱工業生産指数、英4月貿易収支、14日に英5月雇用統計、独5月消費者物価指数確報値、独6月ZEW景況感指数、ユーロ圏4月鉱工業生産指数、15日にNZ第1四半期経常収支、中国5月鉱工業生産指数、中国5月小売売上高、ユーロ圏4月貿易収支、16日にNZ第1四半期国内総生産（GDP）、豪5月雇用統計、スイス銀行（SNB）政策金利、英中銀（BOE）政策金利、17日に英5月小売売上高、ユーロ圏5月消費者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。